

2026年度 芸術科（美術）シラバス

教科	芸術科（美術）	科目	素描	単位数	2	学年	1
学科 ・ コース	美術科 アート・イラスト・アニメーションコース						
教科書	『高校生の美術1』（日本文教）		副教材	なし			
科目の概要	基本的な観察力、描写力を身に付け、多面的に対象を捉える。 合評を行い、自己分析をする。			評価の観点	①知識・技能の習得 造形要素の働きを理解 ②思考力・判断力・表現力の育成 発想を構想・鑑賞 ③主体的に学習に取り組む態度 美術の創造活動の喜び、多様な美術文化に関心を持ち立体的に表現や鑑賞に取り組む		
				評価方法	上記の3つの評価の観点から総合的に判断して評価する。 ・作品 ・提出物、ワークシート ・制作態度など		
授業内容	1 学期 木炭デッサン、クロッキー、鉛筆デッサン等で描写力の基礎を身に付ける。			学習方法	クロッキーの励行及び、自他の作品鑑賞の機会を増やす。放課後等、自主学習も心掛ける。		
	2 学期 1 学期に培った基礎描写力を基に、自分自身と他者の作品との比較を通して作品の自己分析を行う。 3 学期 1、2 学期で習得した描写力、表現力を生かし、形・構成・明暗・量感・質感についての応用力を身に付ける。			備考			

2026年度 芸術科（美術）シラバス

教科	芸術科（美術）	科目	絵画	単位数	2	学年	1
学科 ・ コース	美術科 アート・イラスト・アニメーションコース						
教科書	『高校生の美術1』（日本文教）		副教材	なし			
科目の概要	基本的な観察力、描写力を身に付け、感性を磨き、イメージの展開を充実させる。 合評を行い、自己分析をする。			評価の観点	①知識・技能の習得 造形要素の働きを理解 ②思考力・判断力・表現力の育成 発想を構想・鑑賞 ③主体的に学習に取り組む態度 美術の創造活動の喜び、多様な美術文化に関心を持ち立体的に表現や鑑賞に取り組む		
				評価方法	上記の3つの評価の観点から総合的に判断して評価する。 ・作品 ・提出物、ワークシート ・制作態度など		
				学習方法	イメージ絵日記等の励行及び、作品鑑賞の機会を増やす。放課後等、自主学習も心掛ける。		
授業内容	1 学期 クロッキー等で描写力の基礎を身に付ける。 絵日記から発想をひろげイメージ表現につなげる。 2 学期 1 学期に培った絵日記からの平面展開の基礎力をさらにひろげていく。 コラージュ作品制作を通じて画面構成、イメージ表現の幅をひろげていく。			備考			
	3 学期 1、2 学期で習得した描写力、表現力を生かし、アニメーションを制作すると同時に、自分自身や他者の作品鑑賞力も深める。						

2026年度 芸術科(美術) シラバス

教科	芸術科(美術)	科目	構成	単位数	2	学年	1
学科・コース	美術科 アート・イラスト・アニメーションコース						
教科書	『高校生の美術1』(日本文教)		副教材	なし			
科目の概要	本科目では、「意図に応じて材料や用具の特性を生かすこと」と「表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表すこと」を学習の目標としている。 描画素材の扱い方を基礎から学び、色彩・構図・構成など平面における表現方法の基本的な知識を身につけ、効果的な表現方法を選択し制作の見通しをもって主題を表現する力を養う。 また自他の作品を鑑賞する中で、客観的な視点に立ち冷静に自己評価を行い自他の作品への見方や感じ方を深める。			評価の観点	①知識・技能の習得 造形要素の働きを理解 ②思考力・判断力・表現力の育成 発想を構想・鑑賞 ③主体的に学習に取り組む態度 美術の創造活動の喜び、多様な美術文化に関心を持ち立体的に表現や鑑賞に取り組む		
				評価方法	上記の3つの評価の観点から総合的に判断して評価する。 ・作品 ・提出物、ワークシート ・制作態度など		
				学習方法	作品鑑賞の機会を増やす。 放課後等、自主学習も心掛ける。		
授業内容	1 学期 明度と彩度の関係など色彩理論の基礎を理解し、アクリルガッシュの扱い方を学ぶ。 2 学期 1学期に学んだ色彩理論に構図・構成を含めた応用表現を学ぶ。 3 学期 1・2 学期で習得した色彩・構図・構成の知識に併せ、さらに透視図法を用いた表現を学ぶ。			備考			

2026年度 芸術科（美術）シラバス

教科	芸術科（美術）	科目	工芸Ⅰ	単位数	2	学年	1
学科 ・ コース	美術科 アート・イラスト・アニメーションコース						
教科書	『工芸Ⅰ』（日本文教）		副教材	なし			
科目の概要	身近な素材（木材・陶土・金属・ガラス等）に触れ、それぞれの基本的な知識・技術を身に付け、感性を磨き、素材を研究し、工芸の基礎力の充実を図る。 自己評価シートなどを基に作品を分析し、発表する。			評価の観点	①知識・技能の習得 造形要素の働きを理解 ②思考力・判断力・表現力の育成 発想を構想・鑑賞 ③主体的に学習に取り組む態度 美術の創造活動の喜び、多様な美術文化に関心を持ち立体的に表現や鑑賞に取り組む		
				評価方法	上記の3つの評価の観点から総合的に判断して評価する。 ・作品 ・提出物、ワークシート ・制作態度など		
				学習方法	素材研究等の励行及び作品鑑賞、作家や作品研究の機会を増やす。 放課後等、自主学習も心掛ける。		
授業内容	1 学期 染織と木材工芸の技法について学び、用途や使用感について考え、デザイン力と表現力を身につける。 2 学期 粘土、木、紙などあらゆる素材を研究し、基本的な工芸の力を身に付ける。 3 学期 金属やガラスなどの特性を理解、研究を行い、基本的な工芸の力を身に付ける。 自己の表現を模索すると同時に、自分自身や他者の作品鑑賞力も深める。			備考			